

白神通信

白神山地世界遺産登録25周年記念事業

「ミス日本みどりの女神」1日局長として活躍



ホオノキの実を割ってみると…!!(岳岱)



ナメコ発見!(樺岱新トレイル)

2018ミス日本みどりの女神・竹川智世さんが、藤里町主催の『秋の白神ウィーク「樺岱ウォーク」』に合わせて10月12日(金)～13日(土)の日程で当センターに来所されました。

・12日AM: 藤里町長へ表敬訪問

PM: 岳岱散策→白神山水の館見学→町有地でブナ植樹→アルビオン見学

・13日AM: 1日局長として『秋の白神ウィーク』のイベント“ミス日本みどりの女神と歩く樺岱ウォーク”で樺岱新トレイル散策

PM: “4つの世界自然遺産シンポジウム”に登壇+司会

…と、極めて濃密なスケジュールでした。私(有本)は岳岱と樺岱の散策にカメラマンとして同行しましたが、ブナの実を味わったりホオノキの実を割って香りを嗅いだり、天然のナメコを見つけたり子供たちとふれあったり…と白神山地の森を五感で堪能している様子がレンズ越しに伝わってきました。“ここは森好きが育つ場所”という白神ウィークのキャッチコピーの様に、きっと竹川さんも今まで以上に森好きの気持ちが育まれたことでしょう。

13日のシンポジウムで竹川さんは、一若者向けにSNSを活用して白神山地をPRしてみてもと提案されていました。岳岱と樺岱ではご自身のスマートフォンをサッと取り出し小まめに撮影されている姿が印象的で、未だガラケーを愛用する私とは隔世の感があります。「今まで通りでいいや」ではなく、時代の流れに沿った情報発信のあり方を検討していかなば!と背筋が伸びる思いでシンポジウムに耳を傾けていました。

あっという間の2日間で、竹川さんが白神山地を満喫するには時間が短すぎたかもしれません。みどりの女神のご多忙なスケジュールの合間に、ふと岳岱や樺岱の情景を思い出していただけたら、そしていつか時間にゆとりができれば、白神山地を再訪してブナ林の中で1日中羽を伸ばしていただけたら幸いです。

獨協大学生、岳岱自然観察教育林でボランティア活動

獨協大学経済学部国際環境経済学科2年生26名と3年生19名が、エコツーリズムを生かした持続可能な農村地域作りと農業を、自然体験やボランティア活動を通じて考え学ぶために、白神山地でゼミ合宿を3泊4日でそれぞれの学年ごとに実施しました。

岳岱自然観察教育林内で、8月21日(月)に2年生が木道の修理を、8月24日(金)に昨年に続き3年生がウッドチップ歩道を補修するボランティア活動を行いました。センター職員は2日間の指導をお願いされました。

21日(月)の木道の修理では、所長から「安全に気をつけて作業をしてほしい」と挨拶後、女子は遊歩道の清掃を担当、男子はモリアオガエルのコースと三蓋山コースに分かれ、老朽化した木道の滑り止めのあて木を抜きコケを落として新しい滑り止めの補修しました。お昼時間も超えて汗だくで頑張りました。

24日(金)は二ツ井西目屋線が雨のため正午までにゲートが封鎖されるため、ウッドチップについて作業方法を簡単に説明して作業を実施しました。

学生さんは、それぞれの班ごとに、ウッドチップのトンパックから土嚢袋に分け、担いで400年ブナの上の木道前まで運びました。そこからわき水の前の広場と三蓋山コースに分かれ、ウッドチップを歩道の補修の必要な箇所に蒔いてスコップやレーキでならし踏み固める班と分担して取り組みました。

今回は時間が限られた中での活動でしたが、頑張っていたいただいたおかげできれいに整備されました。

最後に「世界遺産白神山地での保護活動の貴重な体験をありがとうございました。」と学生さんからお礼の言葉をいただきました。所長からは、「2日にわたるボランティアのおかげで大変きれいで歩きやすい歩道となり感謝します。岳岱を訪れた方に、大変喜ばれると思います。機会があったらまた来て下さい」との言葉で今年度は無事終了しました。



女子清掃中



木道の整備



ウッドチップの袋詰め



ウッドチップ作業の様子



木道整備のみなさん(2年生)



ウッドチップのみなさん(3年生)

大仙市 内小友財産区・大川西根財産区研修会

9月6日(木)に藤里森林生態系保全センター研修棟で、研修会を行いました。50代から60代の山に精通した方12名が、「世界遺産白神山地の概要」について熱心に学習をしました。世界遺産白神山地は世界自然遺産に登録されて今年の12月で25年になります。これだけの原始的で広大なブナ林はここ白神山地より見られないこと、豊かな森林生態系がはぐくまれ、ツキノワグマや国の天然記念物に指定されているヤマネなど哺乳類35種、希少種のクマゲラやイヌワシなど鳥類94種、は虫類9種、両生類13種、昆虫類約2200種が確認され、植物については540種以上が確認されています。

ブナの種を手にとりて見たり、胃や腸を元気にするキハダの皮をなめたときは「じいさんが昔なめていた。〇〇さんの家の床柱がキハダであった。酒飲みであったのでなめてたのか。」などと盛り上がっていました。

最後に、哺乳類のモニタリング調査により、白神山地ではないとされていたニホンジカやイノシシがここ数年で発見されていることや、ハクビシンがいることについて「農業被害が心配だ。」などと財産区ならではの話題もありました。予定時間を大幅に超えるほどの盛況で研修を終了しました。



研修会の様子

秋田県立二ツ井高校、白神山地で植樹作業と自然観察会

9月14日(金)、秋田県立二ツ井高校1年生21名が「二高白神プロジェクト」の一環として藤里町で植樹体験や自然観察会を行いました。

午前中は、コンテナ苗のスギ500本とポット苗のブナ30本を14ヘクタールの林内に植樹します。センター職員は植え付けの指導にあたりました。2人1組でディブルと呼ばれる専用の器具で土に穴を開けてスギコンテナ苗を差し込み、根をしっかりと踏んで苗が抜けないようにします。秋晴れの下、生徒さんは頑張って作業をしました。また、ブナのポット苗は同高職員が植樹を行いました。

午後からは、岳岱自然観察教育林で2班に分かれ「400年ブナ」まで自然観察を行いました。イタヤカエデ、大きな葉っぱのホオノキ、ブナ等、所長の説明を熱心に聞いていました。今年はブナの実が豊作で、ブナの実を食べたりキハダの皮をなめたりと、体験をしました。

最後に生徒さんから「小学校でも植樹作業をしましたが、今回もまた体験できると思いませんでした。このプロジェクトを通じて白神山地を知り、多く体験できて楽しい時間が過ごせました。ありがとうございました。」とお礼の言葉をいただきました。



植樹作業の様子



自然観察会

秋田県立能代高校生、白神山地について学習

8月29日（水）に秋田県立能代高校1年生、3名が「フィールドワーク活動」として、白神山地世界遺産地域を調べるため当センターに来所し勉強をしていきました。

生徒さんからは「どうして白神山地が世界遺産になったのか」「白神山地を世界遺産として保全していくための取組内容について」、「人間が自然環境に及ぼす影響について」等の質問があり、地域の宝である白神山地をより深く理解しようとする生徒さんの熱意が伝わってきました。当初は30分の予定でしたが、質問上手で学習熱心な生徒さんとの話も弾み1時間以上の学習となりました。（バスの時間間に合ったかな？）

この後、白神山地について取りまとめ学校で発表するとの事でした。



研修棟での学習の様子

トチバニンジン

ウコギ科トチバニンジン属

藤里町の岳岱自然教育林内を巡視中に赤く実のついたおいしそうなお植物を見ました。輪状の葉の下の根っこもニンジン色か、見てみたいと思いました。



高さ60センチほどの多年草、根茎は太く白色で、長く横にはいます。茎のなかほどに3~5枚の圓卵形の葉を輪生する。茎の先端の球形散形花序には淡黄緑色の小さな花を多数つけます。果実は球形で赤く熟します。葉がトチノキの葉ににているのでトチバの名があります。

参考資料：山と溪谷社「日本の野草」

ブナアオシャチホコ

チョウ目シャチホコガ科

お盆が終わった8月24日、岳岱自然観察教育林のウッドチップ歩道を優雅に歩いていた幼虫を見つけました。



日本全国に分布し、成虫は開張33~43mmで、灰白色、終齢幼虫は約40mmで、黄緑色、背部正中線に沿って赤線とその両側に白線があります。年1化、蛹で越冬し、5~7月に成虫が羽化、ブナ、イヌブナの葉裏に卵塊を産みます。北海道南部や東北地方のブナ林で8~10年おきに大発生し、広い範囲(数百~数千ha)でブナの葉を食い尽くしますが、2, 3年で終息します。

参考資料：森林総合研究所ホームページ「森林生物情報」

編集後記

平成も今年と来年の数ヶ月で最後となります。

平成の年で大きく変わったことは、地上テレビ(4k、8k)、スマホ(SNS、ブログなど)、あとはドローン。昭和生まれの私には考えられないこと、情報発信を自分でできること、そして森林施業も大きく変化してきています。さて、来年度の元号は？生活がどのように変化するのかわくわく楽しみです。

(M. H)